

# 誕生は今から30年前 FXDLの歴史を 振り返ります

## 初代ローライダー

### '77 FXS

ショベル・ヘッドのビッグ・ツイン・エンジンを搭載。ロー&ロングのカスタム・スタイルを確立した。シルバーのタンクに赤いロゴというデザインは77~78年のみ

ファクトリー・カスタムとして生まれたモデルが、現代のスタンダードに。

文○松田佳之 Text: Yoshiyuki Matsuda  
写真○鎌田善祐、杉本謙一  
Photo: Zenita, Matsuki  
取材協力○  
ハーレーダビッドソン・レインボー  
(☎029-822-6666)



### '97 FXDL

92年式からダイナグライド・フレームを採用。現在と同じ車名、FXDLに、エンジンは依然として1340ccのエボリューションを搭載



### '85 FXSB

フレームに旧式を使うものの、エンジンがショベル・ヘッドから1340ccのエボリューションに変更される。シート・カバーを装備



### '99 FXDL

98年にデビューした高性能エンジン、ツインカム88を搭載する。このモデル以降、高速巡航が飛躍的に性能アップしていく



### '91 FXRS

85年モデルから採用されたFXRフレームは、シート下のパイプ・ワークが三角形なのが特徴。スポーツなど、派生モデルも登場した



——ローライダーが初めて登場したのは'77年。その初期モデルや'79年モデルのルックスを、現行モデルのコンプリート・カスタム車両として再現しているローライダー好きが、ハーレーダビッドソン・レインボーの天田昭治さん（以下、天田）です。ローライダーはいつたいたいどうやって生まれたのでしょうか。

天田 77年といえばショベル・ヘッドの時代になります。そもそもビッグ・ツインにはFLしかなかったのですが、'71年にFXが登場したんですね。FXとは、FLのエンジンにXL（スポーツスター）の足まわりを組み合わせたモデルです。このFXをベースに、ドラッグ・レーサーをイメージさせるカスタマイズを加えたのが、FXSローライダーです。

——FXをメーカーがカスタムしたことから、ファクトリー・カスタムと呼ばれたんですね。

天田 斬新なカスタマイズは当時、すごいインパクトがありました。その後エンジンやフレームなどにさまざまな改良が加えられ、FXファミリーとして発展していきませんが、現行モデルのローライダーにもFXSがもっているエッセンスは、確実に受け継がれています。

——その魅力は変わらない？

天田 エンジンの鼓動感、スタイルも含めて、一番楽しめるのがローライダーだと思います。ハーレーの全モデルが古き良き時代のイメージをちゃんと残していますが、デザインでは今、ソフテイルが冒険している



こんないじり方も  
ありますよ

ハーレーダビッドソン  
レインボー  
天田昭治さん  
「全日本選手権ロード  
レース」で活躍後、ス  
ポーツスターやビュ  
エルでもレースに参



純正パーツと美田さんのオリジ  
ナルを組み合わせたフル・ペ  
イントして、初代FXSローライ  
ダーのイメージを再現したのがH  
・Dレインボーのカスタム。79年  
式をモチーフにした写真のパー  
ジョンと、77年式カラーの2種類が  
あり、どちらも最新モデルをベ  
ースにしたコンプリート車両の販売  
のみとしている（車両本体価格は  
26.4万円）。オリジナル製作パ  
ーツの単体販売をシートだけに限  
定しているのは、量産のきかない  
ワンオフ品が多いためだ。

## 初代ローライダーの 雰囲気はカスタムで 再現できるんです



ボルト・オン・パーツとしても  
販売するダブルシートは、エ  
ッジを強調しながら、スリムな  
幅で足つき性も向上させている

ローライダーの特徴の一つであ  
ったヘッドライト・バイザーを  
装備。現行モデルでは廃止され  
ているためマウントには苦心



何気なく見えるフロント・フォ  
ークのカバーも、天板と側板を  
溶接する手作品。後40mmの  
フォークに合わせて製作



77年モデルのみに使用されてい  
たエア・クリナー・カバーの  
形状を再現。排気量を表す数字  
は複製車両の1450ccである



フロント・フェンダーは多も販  
売中の純正パーツ。しかし106キ  
ロワットはフォークのボトム形  
状が変わったため、該当は大き



一方で、ダイナは選手さでない、オ  
ーソドックスなスタイルを維持して  
います。私の場合、変わらなにか  
ら、長くつき合おうと思える。

— 伝統のエッセンスをきちんと継  
承している現行ローライダーを、あ  
えて77年や79年モデルのイメージに  
カスタムしているのは、何か特別な  
思い入れがあるのでしょうか。

天田 思い出としては、ハーレーの  
販売店を始めた時に、初めて魅力  
を感じたのが79年モデルのローライ  
ダーなんです。下取りの車両が入っ  
たのを売らずに、自分用として持っ  
ていましたから。

— プロの方が自分の愛車にすると  
いうことは、よっぽど好き。

天田 ですね。もう、僕の個人的な  
感性、エゴで作ってます。77年式も  
含めて、初期のローライダーのデザ  
インが気に入っているんです。国産  
のバイクでも70年代の旧車を200  
万円で購入人がいるじゃないですか。  
それと同じ気持ちです。

— レーシング・ライダーとしての  
経歴をもつ天田さんは、性能にこだ  
わるのかと思いましたが...

天田 速いオートバイも好きです  
が、乗ってもストレスが解消できる  
だけ。自分がいやしを求めているの  
は、ローライダーなんです。レースもや  
りましたが、本当は工業デザインを  
勉強したかったりと、造形美にも興  
味がある。このコンプリートは完全  
に自分の世界ですが、皆さんがカス  
タムする際のヒントになればいいな  
と思います。



# 楽しみ方はイロイロ カスタム・サンプルズを 拝見しました

ダイナ・ローライダーを自分だけの一台にカスタムするべく、  
カスタムを楽しんでいるオーナーさんを紹介!



これを見た瞬間、  
「ビビツとききましたね」

'08 FXDL / 小室光由さん

文：中野Uta Text：Hisashi Nakano  
写真：持木大祐 Photos：Nochihi



## 初

代ローライダーのカラーリングに仕上げたFXDLのオーナーは、オリジナルのサドル・バッグで定評のある「ラフ・テール」の社長を務める小室光由さん。

「以前はFLHTに乗っていたんですけど、最近キビキビ走るバイクがほしくなり、FXDLが気になっていました。そんな時、たまたま入ったショップで初代ローライダーのカラーに塗装されたコレを見つけ、ひと目惚れしてしまいました。10年以上前にシヨベル・ヘッドのローライダーに乗っていたので、ビビツとききましたね」

昔ながらのローライダーのスタイルを再現したカスタム車に、「ラフ・テール」のオリジナル・グッズを装着。ハンドル・バーには、アッシュ・トレーを、リア・フエンダー・ストラットには、「ETCケース」を付けて、実用性もアップしている。「これまで何台もハーレーに乗ってきましたが、満足度は過去最高!」



カラーリングだけでなく、ヘッドライトやフロント・フェンダーなども'77年式を再現している

取り外しも簡単な直ちゅう製のアッシュ・トレーは、オリジナルの一点モノだ



本家のETCケースも人気のワンネスシリーズ、コナツは複製品だ



サドル・バッグはラフ・テールのワンネスシリーズのアイテム



マフラーは、オーナー自身がこだわってチョイスしたサンダース製を装着

